

巻頭言

大阪体育学会 会長
河鱒一彦（関西学院大学）

この原稿を書いている、3月中旬は花粉が飛び交い黄砂も舞、桜の便りもちろほら聞かれる時節です。さて、過日大阪体育学会第63回大会が関西学院大学上ヶ原キャンパスにて開催されました。溝畑潤大阪体育学会副会長が大会長となり、三村寛大阪体育学会理事が大会実行委員長、佐野加奈絵理事が庶務会計担当実行委員として活躍いただき成功の裡に終了することができました。加えて新しい試みとして溝畑潤副会長が御世話役を務めるラグビー学会と共催となりこちらも多くの参加者が参集くださいました。ラグビー学会とは発育発達途上の子ども・青少年を共通課題としての共催となりました。日本体育大学野井真吾教授を共通の基調講演担当者としてご参加いただき貴重な講演をいただき小職は感銘を受けました。現代社会を生きる子どもや青少年が抱える諸課題について科学的エビデンスをもとに講演いただき我々、体育健康スポーツの専門家として禄を食む者たちへの問題提起と受け止めさせていただきました。

小職は常々学会大会は「論文前公開」いわゆる prepaper discussion として、重要であり研究者が集い、老若男女かわらず自由に語りあう祭りではないかと考えています。小職が責任著者を務める発表に、するどいご指摘をいただき「発表」してよかったという思いを抱くことができました。学会誌と学会大会は学会運営の両輪です。来年度以降も学会会員の皆様の積極的な参加をお願いして筆をおきます。ちなみに来年度は涌井理事関西大学教授が大会長となり関西大学堺キャンパスにて開催される予定です。